

PatentfieldとPatentfield AIRにおける生成AI活用の最新情報

Patentfield概要と生成AI統合

Patentfield（パテントフィールド）は、AI技術を活用した特許の総合検索・分析プラットフォームです。従来から類似特許の検索（AIセマンティック検索）や特許分類の予測機能などを提供してきましたが、近年は**生成AI**（大規模言語モデル）を組み込んだ新機能群を展開しています。特に注目すべきはオプション機能

「**Patentfield AIR**」で、特許検索結果の集合（最大1万件）に対してワンクリックで生成AIによる要約・分析を実行できるようになりました¹²。生成AIが特許公報の明細書全文を読み込み、その発明の課題・効果・解決手段といった内容を把握した上で、専門用語をできるだけ避けた分かりやすい文章に要約してくれます²。この機能により、膨大な特許文献を一つ一つ精読する必要が減り、特許調査・査読にかかる時間を約**65%**も短縮できると報告されています²。

生成AIを活用した特許検索・分析の主な機能と応用

Patentfield AIRが提供する主な生成AI活用機能（大量文献の高速処理、特許公報のわかりやすい要約、キーワード抽出、ポートフォリオ分析、特許分類ラベル付与、発明の評価）³⁴

Patentfield AIRでは、生成AIの汎用的な言語理解・生成能力を活かし、特許調査・分析の様々な場面で支援を行う機能が搭載されています⁵。主な機能とその応用例は次のとおりです。

- ・**特許明細書の要約生成**: 特許公報の「要約」欄だけでは把握できない発明のポイントも、生成AIが明細書全文から「何に使えるか（用途）」「何を解決するか（課題）」「どんな効果があるか（効果）」「技術的ポイントは何か（特徴）」の4観点で抽出し、平易な日本語でまとめてくれます⁶。例えば特開○○号の明細書を入力すれば、発明の目的や効果を一読で理解できる独自要約が瞬時に得られます。この**AIサマリー**機能により、特許の内容把握が容易になり、専門家でなくとも発明の核心をすぐ掴めるようになります⁷。さらに日本語要約はテキストデータとして蓄積されるため、平易な言葉で関連特許を検索することも可能になります⁸。
- ・**特許文献の自動分類・ラベル付与**: 生成AIが各特許の内容から発明の用途や技術課題を分析し、独自の「**用途ラベル**」や「**課題ラベル**」を自動付与します⁹。これにより類似技術や目的を持つ特許をグルーピングでき、関連文献の比較検討が容易になります。また付与されたラベル情報を使って、特定技術分野で「どの課題領域に対し、どんな用途の特許出願が多いか」をマッピングする分析も可能です¹⁰。こうしたラベルの可視化により、技術動向やポートフォリオの**俯瞰分析**が直感的に行えます¹⁰。
- ・**類似文献の抽出と生成的な分析**: Patentfieldには従来からAIによる類似特許検索機能がありますが、Patentfield AIRではその検索結果に対し生成AIが**関連性の判定**や**比較分析**を行うことができます¹¹。例えば、新規アイデアの概要やクレーム案を入力すると、生成AIが内容を理解して関連性の高い先行特許を抽出し、各文献中の該当部分（段落）まで示すような**発明の新規性評価**も可能です¹²。また検索で得られた特許集合全体について、競合他社の特許ポートフォリオを俯瞰し技術戦略をまとめる**レポート自動生成**といった高度な応用例も紹介されています¹³。このように、生成AIが複数文献を横断して比較・洞察を提示してくれるため、調査担当者のナレッジ獲得を支援します。

・**外国語特許の翻訳・要約**: Patentfieldは主要5特許庁（日本・米国・欧州・中国・韓国）を含む世界の特許データをカバーしています¹⁴。生成AI機能は日本語以外の公報にも対応しており、例えば**中国語や韓国語の特許公報**についてもワンクリックで日本語要約を生成できます¹⁵。翻訳文に基づくAIサマリーが得られることで、言語の壁を越えて外国特許の内容を迅速に把握でき、しかも日本語テキストとして蓄積されるので日本語で直接検索・分析することも可能です¹⁶¹⁷。これはグローバルな先行技術調査や他国特許の動向把握に大きな威力を発揮します。実際、2025年10月には海外特許向けのオプション「**AIサマリーグローバル**」が正式リリースされ、米欧中韓台WOの特許8000万件超について日本語要約・ラベルデータ提供が開始されました¹⁸¹⁹。

特許調査業務の効率化とナレッジ共有への貢献

生成AIの活用により、Patentfieldは特許調査・分析業務の**大幅な効率化**と知識共有の促進に貢献しています。特許文献の要約や分類ラベルが自動生成されることで、調査担当者は読むべき文献の取捨選択を素早く行え、個々の明細書を精読する負担が減ります。実際にPatentfield社は、AIによる自動査読を導入することで「これまで専門家でなければ困難であった特許情報の読解・検索・分析がさらに容易になる」と述べており⁷、社内テストでは大量の特許を読む時間を**約3分の1に短縮**できたとしています²。こうした効率化により、調査担当者は空いた時間をより付加価値の高い分析や戦略立案に充てることができます。

また生成AIによる**知見の見える化**もナレッジ共有に寄与します。従来、特許の内容を理解して他部門に共有するには専門家による要約や解説が必要でしたが、PatentfieldのAIサマリー機能により誰でも理解しやすい形で発明のポイントを抽出できるため、社内の技術者や経営層とも情報共有しやすくなります。例えば生成AIが作成した用途・課題ごとのマッピングやポートフォリオ分析レポートは、特許の出願動向や競合の技術戦略を一目で示すため、R&D部門との協議や意思決定の資料としてそのまま活用できるでしょう²⁰²¹。さらに検索結果やAI生成データはExcelファイルにまとめてエクスポート可能であり²²、チーム内での**ナレッジ共有**や蓄積も容易になっています。総じて、Patentfieldにおける生成AIの導入は、調査効率の飛躍的向上だけでなく、特許情報を組織内で「見える化」して共有・活用する上でも大きな役割を果たしています。

最新の機能リリースと事例

Patentfield社は公式サイトやプレスリリースを通じて、生成AI関連機能の追加やアップデート情報を積極的に発信しています。2025年には、日本公開特許を対象にした「**AIサマリー**」機能を**標準提供開始**し、さらに海外特許対応の「**AIサマリーグローバル**」を同年10月1日にリリースすることが発表されました²³。AIサマリーでは、日本特許公報8000万件超について生成AIが核心を自動要約・構造化したデータを収録し、特許を「読む」から「見る」体験へ変革することが掲げられています²⁴²⁵。具体的には用途・課題・効果といった観点の独自要約文や用途/課題ラベルが各特許に付与され、平易な日本語で検索や可視化分析ができるようになりました⁶。一方のAIサマリーグローバルはオプション契約で提供され、米欧中韓台湾など外国公報にも同様のサマリー機能を拡張するものです²⁶。リリース記念として期間限定の無料トライアルも案内されるなど²⁷、ユーザーが新機能を試しやすい施策も取られています。

また、生成AI機能の実例紹介や活用促進のための**ウェビナーやデモ**も開催されています。例えば2025年6月には、中国・韓国特許情報の標準搭載とPatentfield AIRの活用をテーマにしたウェビナーが行われ、Patentfield AIRを用いた中国特許の日本語要約生成やノイズ判定、SDI調査（定期監視）の自動サマリー分析といった高度機能がデモされました²⁸。このような公式発表やデモンストレーションからは、Patentfieldが生成AIによって特許調査の次世代化を積極的に推進している様子が伺えます。¹⁸ 特に「特許を読むから見るへ」というコンセプトは、生成AIで加工した情報を視覚的・直感的に扱えるようにする同社サービスの方向性を象徴しています。

他の特許関連AIツールとの比較における際立つ点

近年、特許分野でも生成AIを活用したツールが次々と登場しており、Patentfield AIRはその中でも包括的な機能を備えた一例と言えます。他社の例として、リーガルテック社の**ChatTokkyo**は特許検索サービスTokkyo.ai上で提供されるチャット型の調査AIで、ユーザーが日本語の質問を入力すると関連特許の検索・要約・解説を対話形式で行ってくれます²⁹。ChatTokkyoは生成AI（GPT-3.5ベース）の活用により2024年頃から正式提供が開始され、簡単な問いかけだけで必要な特許情報を引き出せる点が特徴です³⁰。一方、Patentfield AIRはチャットボット型ではなく既存の検索結果画面と統合したワークフローを強みとしており、**大量データの一括処理**や可視化連携など企業利用を見据えた設計になっています³¹。実際、Patentfield AIRでは最大1万件もの特許文献をまとめてAI査読し結果をExcelやマップ表示に連携できるため、**スケーラビリティと分析機能の豊富さ**で際立っています³²。さらにPatentfieldは生成AIモデルとしてGPT-4相当の「GPT-4o-mini」など高度なモデルを採用している点も注目²²、これにより要約精度や洞察の深さに優位性があると考えられます。

また、日本発の特許AIツールでは特許要約特化型の**Summaria**（Patent α社）や、グローバル特許検索AIの**Amplified**なども知られています。Summariaは公開情報が限られますが、特許文書を読み上げながら要点をまとめるリーディング支援ツールと伝えられています。一方のAmplified（株式会社amplified ai提供）は発明の説明文や特許番号を入力するだけで、世界中の特許を学習したAIが**類似文献のリストを自動生成**する機能を持ち、先行技術調査にかかる時間を大幅に短縮できるとされています³³。このように各サービスが独自のアプローチで生成系AIを活用していますが、**Patentfieldの場合は単一プラットフォーム上で検索・分類・要約・分析までワンストップ**で提供できる包括性が強みです。³¹ 特に特許調査プロセス全体の効率化（検索クエリ作成から結果分析・レポート作成まで）を支援する統合度の高さは、他ツールと比較して際立つポイントと言えるでしょう。また、国内外の特許データ網羅性や、日本語による横断検索・可視化と生成AIの組み合わせといった点でも、Patentfieldは知財調査実務に即した実用性を追求している点が特徴です。

以上のように、PatentfieldおよびPatentfield AIRは生成AI技術を積極的に取り入れることで、特許情報の検索・分析・共有の在り方を刷新しつつあります。その最新動向を把握し活用することは、知財業務の効率化と高度化に繋がる重要なトピックとなっています。⁷ ³⁴

¹ ³ ⁴ ⁵ ¹¹ ¹² ²² Patentfield AIR 生成AI調査・分析オプション

<https://support.patentfield.com/portal/ja/kb/articles/patentfield-air-%E7%94%9F%E6%88%90ai%E8%AA%BF%E6%9F%BB-%E5%88%86%E6%9E%90%E3%82%AA%E3%83%97%E3%82%B7%E3%83%A7%E3%83%B3>

² Patentfield株式会社 | evort エボルト

<https://evort.jp/presenters/patentfield>

⁶ ⁷ ⁸ ⁹ ¹⁰ ²³ ²⁴ ²⁵ ²⁶ [Patentfield] 生成AIで8000万件の特許を「見える化」。AIサマリー機能をリリース！グローバル特許にも対応したAIサマリーグローバルを10/1にリリースします。 | Patentfield株式会社のプレスリリース

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000059.000025380.html>

¹³ ²⁹ ³⁰ ³¹ ³² ³⁴ 生成AI（GPT、LLM）を活用した特許情報分析のポイント Part6（Chat-GPT Deep researchとの合作） | LeXi/Vent 上村侑太郎

https://note.com/yu_py/n/na23e6c4375eb

¹⁴ ¹⁵ ²¹ ²⁸ 『Patentfield』中国・韓国の特許・意匠情報を標準搭載へ | Patentfield株式会社のプレスリリース

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000055.000025380.html>

16 17 18 19 20 27 [Patentfield] 生成AIで8000万件の特許を「見える化」。AIサマリーグローバルを本日10/1にリリース | Patentfield株式会社のプレスリリース
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000060.000025380.html>

33 知財業務 生成AIでどこまでできる？『知財HR』
<https://hr.tokkyo-lab.com/column/pinfosb/chizaigyomu-ai>